

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200278		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみのかも		
所在地	岐阜県美濃加茂市下米田町東柄井66-1		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成25年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171200278-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171200278-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が同じ理念を共有しながら利用者の生きてきた過程やその人となりを大切にしながらのケアを心がけ、家族の思いを理解しながら利用者を真ん中にして家族と施設とで支えるよう努めている。外出や買い物などできる限りご希望に添えるようご家族とも相談をしながら出かけている。今までの生活と同じ安らぎやそれ以上の楽しみを提供し、利用者にとってもご家族にとっても気兼ねの要らない安心できる環境を作るよう努めている。併設の施設の協力が得られることによりレクリエーションや季節の行事などホームだけでは出来ないような大規模な楽しみを提供できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは複合施設の中にあり、隣接するケアハウスに出かけ、書などの習い事等と一緒に楽しんでいる。地域に溶け込み、地域への還元を図るよう、社会福祉協議会主催の福祉フェスティバルでは、認知症相談コーナーを設け、住民に対する啓発と広報を行っている。ホームでも季節が味わえるよう、秋の栗ごはんや初冬の干し柿作りを行っており、利用者が積極的に皮をむいたり紐を通したりと、自発的に関わっている。日々の散歩で、顔なじみになった住民から野菜をもらい、食卓の1品に加わっている。利用者がのんびりと自分のペースで暮らせるよう、その人らしさを大切に支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念、グループホームとしての理念を掲げ、常に目に触れるようホーム内に提示し全職員が理念を理解した上で毎日の利用者のケアに努めている。	「利用者の立場で」「地域に対して専門技術の提供を」という理念を掲げている。理念を、見やすく掲示し、日々の申し送りの中で共有しながら、その人らしさを大切に暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会とのかかわりを常に持ち続けていられるよう外出や外食に出かけ、夏祭りやサイクル、掃除など地元の行事にも積極的に参加をし地域との交流を深めている。	地域の掃除を利用者と職員が定期的に行い、顔なじみになった住民に野菜をもらったり、挨拶を交わしている。住民がしめ縄作りや民舞に訪れ、余興を通して、地域との交流を盛んに行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の支援センターが活動を行っているがグループホームとしても運営推進会議を通し地域の一人暮らしの高齢者の把握をし交流を深めていきたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族に出すお便りを配布し、ホームの活動の様子と利用者の状況などを報告しそれについて助言や協力を得ている。	2ヶ月に1度会議を開催し、行政関係者や地域住民、家族代表が参加し、地域行事や法人行事の報告を相互に行っている。内1度の運営推進会議は、食事会を兼ね、参加者と利用者が共に和気あいあいと過ごしてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険担当者は運営推進会議のメンバーでもありホームの待機者と入退所の状況、現状の報告をを毎月行い、実情を知らせている。	入居状況や待機者数の報告などを行ったり、行政からは認知症で住民が困っているとの相談もあり、気軽に話し合える良好な関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修、中堅研修のカリキュラムにも組み込まれており、身体拘束廃止の基本方針を全職員が周知理解した上でいかなる場合でも拘束はしないとの前提でケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを、基本方針に定め、職員間で周知・徹底している。施錠が必要な時であっても極力行わず、見守りに対応するよう全職員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修を通して虐待防止の必要性と何気ない言葉からでも虐待につながることを理解し防止に努めると共に事業所内でも虐待が行われることのない様注意を払って接している。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の権利擁護に対する公演や研修会が開かれ出来る限り参加をし理解に努めている。法人の支援センター内にも相談の窓口が設けられいつでも相談に応じる用意がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の内容については入所の際にご納得いただけるまで説明を行っている。法改正があった場合もその都度ご説明をし、契約の取り直しを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けその席でも発言をいただいているがグループホーム便りと利用者状況報告書でホームの活動や個人の状態をお知らせをし、返信欄を設け希望や要望をお聞きしている。グループホームでご満足度アンケートを実施しサービスの向上に活かしている。	家族会や来訪時などに、意見や要望を聴いている。また、通信の返信欄を活用したり、アンケート調査も行っている。意見等は、速やかに改善し、サービス向上に活かしている。さらに、家族がより多くの意見を表せるように検討している。	家族の意見や意向を、さらに引き出すような働きかけや、場面づくりに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の他、必要に応じて話し合いに機会を設けている。更にエリア会議で事業所としての意見や要望などを提案する機会がある。	管理者は、毎月の会議で、職員から意見・提案を聴いている。ケアの課題や成功事例等を話し、日々の支援に反映させている。提案内容により、法人上部で対応策を取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で常にスキルアップを目指し資格取得への取り組みがある。成果に対しての手当てや時間外勤務、勤勉手当など意欲を持って勤務できる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、中堅、リーダーなどレベルに応じて研修のプログラムがあり、研修委員により全員が研修を受けることが出来るよう体制が整っている。また法人外の研修にも法人が研修費を負担し積極的に研修を受講するよう勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月のネットワーク会議に参加することにより、法人外の事業所と事例検討会を開いたり互いに意見を交換する場がある。法人内でも向上委員会を開き事業所同士の情報の交換やケアの統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面接で家族や本人の抱えている問題や不安、要望などをしっかりと把握し入所後のスムーズなケアに繋げ、安心した生活の確保に努め家族にとっても安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな場合でも家族の立場に立った視点で話しを聴き、ホームで出来ること、出来ないことをしっかりと説明をし、安心をしていただくと共に信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が出来ることややりたい事、家族が望む利用者の姿などを考慮し、家族も同席し納得のいくサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係にならないよう自然な形で介助が行えるよう心がけている。また利用者の力を引き出せるよう必要最小限の介助を行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで出来ること家族にしか出来ないことを理解していただき一緒に協力をして支えることで利用者が安心して充実した生活が出来るよう支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から行っていた馴染みの美容院、喫茶店などに継続して出かけ、そこで会う友人や店主などとの交流が続いている。今後も続いて交流が出来るよう支援をしていく。	子供の頃に泳いだ川や毎年利き酒をしてきた酒屋に職員が同行し、懐かしい思い出話を交わしている。馴染みの店や美容院、喫茶店にでかけ、知人・友人との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で利用者同士が協力をし、お互いを思いやれるような環境を提供できるよう心がけている。個性を大事にしながらも一緒にレクリエーションや行事に参加をして楽しんでいただけるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の環境にスムーズに移行できるよう情報の提供や相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	着る洋服やおやつなどいろいろな場面で選択ができるよう自己決定の機会を作るよう心がけている。また、したいことや行きたいところなども気軽に話してもらえうような関係作りや環境作りにつとめている。	入居時の家族への聞き取りに加え、日常的に拾い上げた気づきなどを細かく個別に把握し記録している。隣接の施設で書を習い、毎月の楽しみが生きがいとなるように繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントにより生活歴や嗜好、得意なこと、できることを把握しケアに活かしその様子を記録することにより経過観察に活かし、その後のケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時のアセスメントはもとより毎日の様子から常に状態を観察することにより新しい可能性の発見があることを信じ、会話などの内容を細かくチェックしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には職員のほか家族にも参加をしてもらい様々な方向からプランについて話し合いを行っている。必要に応じて法人の栄養士や理学療法士などからも助言を得ている。	介護計画は、担当職員により、利用者が行える家事や趣味を取り入れた計画を作成している。法人の栄養士や理学療法士の意見を取り入れることもあり、専門分野の関係者とも話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録する際に気づきや考察の欄を生かし、できる限り職員の考えも記録するようにしている。職員会議の際に利用者の様子や状況を居室担当から報告し全職員でその情報を共有することができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空室をショートステイとして利用。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市のボランティアに協力をお願いし園芸を手伝ってもらい土に親しんだり、歌や踊りで余暇をたのしんでもらっている。地域との交流により行事に参加をしたり避難訓練にも自治会の協力がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も引き続き同じ医師にかかられたり希望があれば訪問診療も利用できることを説明し納得の行く形で受診をされている。受診の際はホームでの様子を状況報告書によりお知らせをしている。	家族による受診が基本であるが、急変時や家族の都合により、ホームの関連病院に受診することがある。歯科は定期的に往診があり、利用者の歯の清潔や口腔ケアを適切に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師により健康管理をおこなっている。それぞれ利用者が受診する際には情報の提供をその都度行い、適切な診療や投薬が出来るよう支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は病院でもホームと同じケアを受けられるよう状態を記入したフェイスシートと処方箋を提出している。法人と協力体制にあるため地域連携室から入院中の状態や退院に向けてのサポートが得られるよう連携がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLの低下に伴う状態の変化などはその都度ご家族にお知らせをし現状を理解していただいている。法人内の施設連携会議を活用し早期に状態に応じた環境で生活が出来るよう支援をしている。	終末期ケアは行わない方針としている。医療行為が常時必要になったり、ホームでの日常生活が難しくなった場合には、家族と法人で話し合い、他施設に早めに移行してもらうよう入居時に家族と合意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時には全員が適切に対応できるようマニュアルがある。救命救急講習は2年に一回全員が受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会、消防署と合同での防災訓練、夜間召集訓練を毎年行い災害に対する意識を強めている。事業所では非難経路の確認や消火器の場所、点検をおこなっている。	年に2回の訓練の内1回は、自治会や民生委員や住民、近隣企業など地域関係者も参加し、利用者も交え、敷地内の外への避難誘導などを共に行っている。職員は避難経路や避難場所を把握・共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声掛けや失敗などの片付けなどさりげなく対応するよう心がける共に不用意な言葉や態度で利用者の自尊心を傷つけることの無いよう職員同士で注意をしている。	利用者の心を気づかい、面会が少ない人に対する心配りや声かけを細かく行っている。入室する際は本人に了解を得てから入室するよう心がけ、馴れ合いにならない言葉かけで対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日に着る服やレクリエーションでの場面で常にどうするかを訊ねるようにしている。些細なことでも職員が決めてしまうことの無いよう心がけ、決定が出来ない利用者でもどちらかを選ぶなどの簡単な決定を促すようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分でその日に予定していた事が出来なくても何のために、誰のために行っていることを常に考えながら行動をするよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選べない利用者には家族から好きな服を聞いたり、洗面台には櫛をおき身だしなみを自分で整えてもらっている。入浴後の化粧水や乳液などが使えるよう用意をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜きり、盛り付け、配膳、テーブル拭きなどそれぞれにあった仕事をし、協力をして食事の用意をしている。食器を流しまで運んでもらうなどできる限り片付けにも参加をしていただいている。	食材の買い出しに、利用者も一緒に出かけている。野菜の皮むきなどの下準備も行ってもらっている。誕生会や季節に合わせた行事食は、利用者の希望の献立を取り入れ、食事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を利用しており栄養バランスが取れている。それぞれにあった摂取量と食べやすい形態にし、水分は一度に沢山の水分が取れないため8回に分けて水分摂取を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後、夕食後にそれぞれに応じた歯磨き、義歯の洗浄の確認、見守り、声掛け、介助を行い全員の口腔内の清潔を保っている。毎水曜にはポリドントで消毒を行っている。また、訪問歯科の治療、ケアを受けられるよう支援をしている		



岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態を把握し個人に合わせた誘導を行うことで出来る限りトイレでの排泄を促すよう努めている。尿取りパットや紙パンツを効果的に使用することで失敗によるストレスをなくし快適に過ごすことが出来るよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンや状態を、職員間で周知している。できるだけトイレでの排泄できるように、こまめに誘導し、自立につなげている。必要な人には、夜間のポータブルトイレの使用を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に効果のあるヨーグルトやバナナはメニューに食事につけたり、おやつに出すなどなるべく摂るように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	5月の菖蒲湯、冬至のゆず湯などは欠かさず行っている。入浴日や時間は概ね決まっているが入浴の順番や一緒に入りたいとの希望にはそのつど応じている。また今のところは希望はないが寝る前の入浴を希望されれば応じる用意はある。	入浴は週3回を基本にしており、1対1でゆったりと入浴できるよう支援している。毎日入浴希望や入りたい時間の希望があれば、職員配置を考慮し、利用者の希望に応じる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や生活習慣を壊さないよう支援をしている。寝るときの室温、明るさ、寝具の種類など安眠できるよう希望に応じて整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その都度処方箋は閉じてあるが全員がお薬手帳を持参し処方された薬は全て把握できるように貼付して管理をしている。受診の際は様子の情報を主治医に提供することで出来る限り服用する薬を減らすよう支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや家族、本人からの話にからしいことや好きなことまた趣味を継続できるよう支援、新しい楽しみの発見をするよういろいろな提供を心がけている。毎年文化の日には文化集いと称し作品を展示している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な家族との外出にも応じている。喫茶店、外食、墓参りなど家族の協力も得ながら出来る限りの外出を支援している。また水族館など普段ではいけない所にも積極的に出かけている	天候に合わせ、全員でホームの周囲を散歩したり、畑の手入れをしている。喫茶店、外食、墓参りなどは、家族と協力して支援している。普段行けない遠方へは、法人の車で出かけている。	



岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人としては原則、現金の所持は禁止をしているが本人が管理をすることで小額であれば容認している。身の回りの買い物や買い物に出た際、好きなお菓子を買ったり喫茶店に行くなどに遣われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	宅急便で荷物が届いた際には電話でお礼を伝えるよう促しを行っている。暮には皆で年賀状を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使ったものは置きっ放しにしないよう職員同士で注意あっている。居間の壁には季節感のある飾り付けをシーズン毎に施している。浴室と廊下の温度差が無いようエアコンで調節している。	吹き抜けの居間は明るい日差しが入り、台所と洗面所も居間に一体化した造りとなっている。共用空間の室温と、居室やトイレとの差がないようしている。利用者には、昼食後、ソファでくつろいだり、仲良し同士の会話や職員とのゲームなどで楽しんでもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の好きな場所に座ることでそれぞれ気のあった同士でおしゃべりを楽しむことが出来ている。食堂で字を書いたり、貼り絵をしたりとそれぞれが好きなことをして過ごす場面も見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みのある家具、や寝具、思い出の品、仏壇、家族の写真など身の回りに置いておきたい物を自由に持参していただき安らげる空間作りの支援を行っている。	居室は利用者の好みでドアが解放され、近所付き合いのように、廊下で立ち話をする姿もある。居室には、ダンスや洋服かけが持ち込まれ、家具の配置や夏冬の入替えは、家族と職員が一緒に行い、安らげるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、居室の入り口のほかホーム内はすべて安心して歩行が出来るよう段差の無い作りになっている。洗濯物を入れる籠を置くことで自分から洗濯物を出すことが出来るなど少しでも一人で出来るような支援をしていきたいと心がけている。		